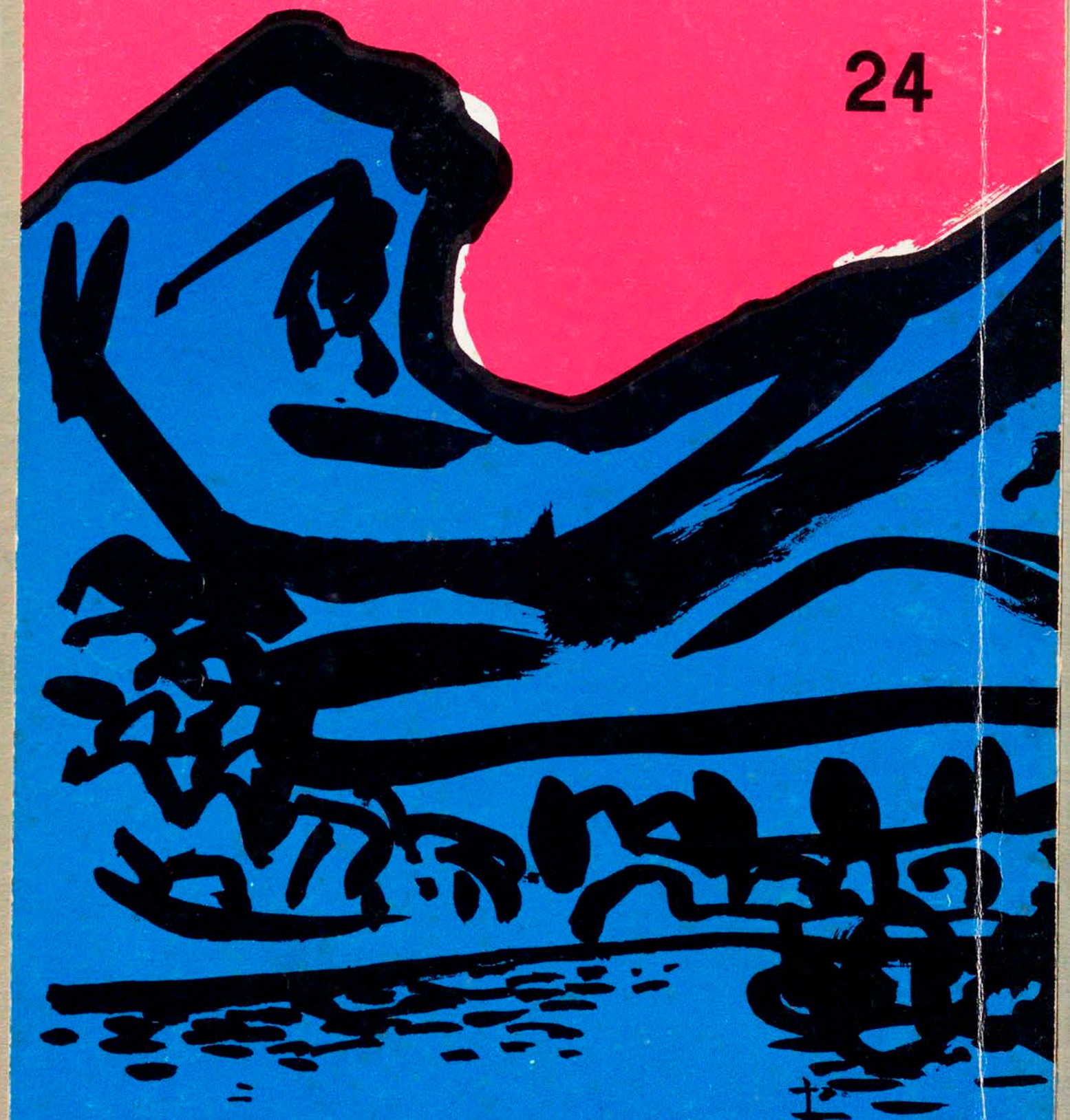


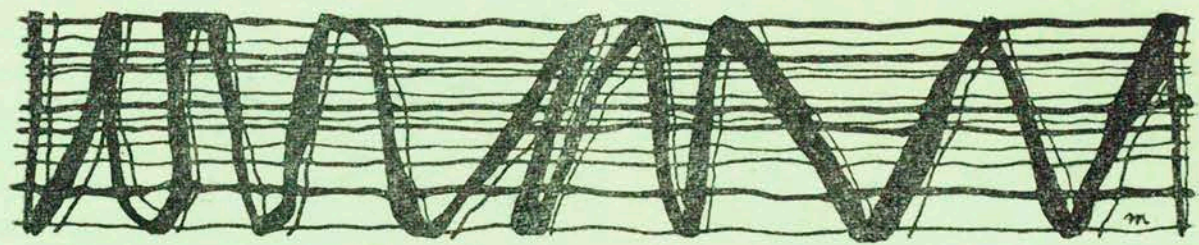
ひめまつ

24



美

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会



ひめまつ第二十四号 目次

表紙・扉絵……渡辺安友 題字……石川木魚 校歌・写真

「巻頭言」七十周年記念の年……須賀友正 1

◇経済講話を聞いて 吉井英子・赤羽根利子・西尾のぶ・加藤京子・伏木芳子……2
松尾律子・北条志津江・斎藤美喜・長島節子

役員と会員との親密を(新生徒会長就任に当たりて)……青木みよ子 8
評議会の発言をより活発に(生徒会一年の活動を顧みて)……高山三雪 9

詩
小牧里子・秋沢政子・伴寿美枝・秋沢幸子・五乙女育子・荒井美知子・上野好子
入見洋子・渡辺陽子・久保智世子・斎藤ヨシエ・鈴木しげ子・沼尾京子・高山秀子
田村仁子・岡崎典子・渡辺茂子・黒川浩子・若林栄子・福田節子・永山たき子
池田房子・渡辺喜代美・高山三雪・五月女みき・池田仁子……12

紹介 人間教育に挺身した須賀栄子先生……副校長 須賀淳 23

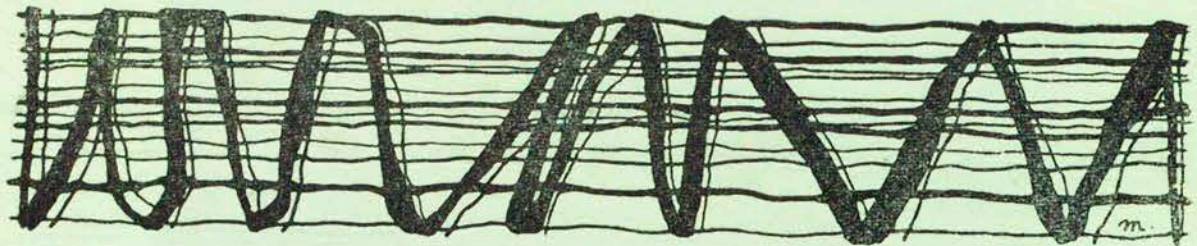
▽万国博作文コンクール一位入賞の赤羽根利子さん……高山三雪 29

「若人よ、人間として立派に」(弁論大会入賞要旨)……高山三雪 29

特別寄稿 「窓日」(短歌)……水沼武 31

一つの提言……大貫秋子
凍るひまなし水車……稲葉洋子
後悔のしつづけ……本田文子
明日を創る努力……加藤広子
じつと私をみつめたその目は飯野八重子
私のふるさと会津……橋本和子
実技試験で一番に……茂木美智子

暖かい先生の教え……斎藤一枝
私たちの青春……川上政子
計り知れないプラス……松尾律子
はじめての献血……奈良志津江 32
兄 妹……鈴木きよい
大らかな寛容と愛情……坂本恵美子
むずかしい人間関係……永井美佐子



「職員寄席」……手塚武 大橋佳夫 小栗健男
M・HASHIMOTO 伊沢雪夫 48
君島弘子 大淵和子 海老原昇

先輩としてひと言……短歌 42 俳句 63

旅 奈良・京都・大洗・那須……57
浦坂美智子、黒崎和子、入見恵美子、奈良志津江、町田千枝子、大森悦子、熊田照子、田名綱和子、永山さち子

創作コンテ集……放送部 68

「特集」校内ニュースピック集……編集部 70
家政科実技検定について……戸室文子 77

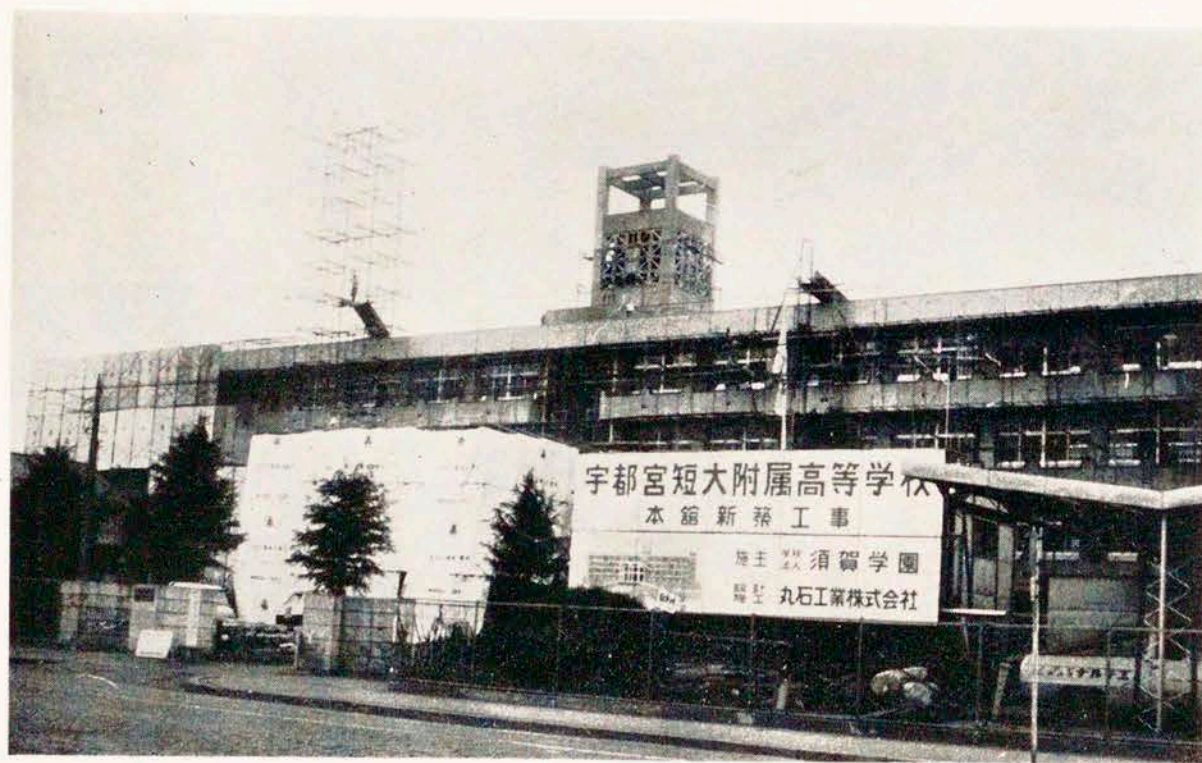
生徒が描く理想の先生像……78
松崎俊子、熊田照子、鈴木輝子、伏木美知代、吉沢和子、生沼芳子、渡辺まさ子、渡辺恵子
舟本澄子、野沢勝子、小坂橋富江、北条志津江、田所秀子、飯島和子、稲見イリ子、高橋綾子
野口節子、木下麗子

クラブ活動……85
進学希望者調べ……98
卒業生就職状況……99
職員住所録……102

詩について……手塚武 97
就職状況について……101
生徒会役員一覽……104
◇編集後記◇……104



ふるう鍬にも心をこめて……校長先生の鍬入式（本館新築）



新校舎の全景（さあもう直ぐ出来あがります！）

校 歌



宇都宮短期大学附属高等学校校歌

一

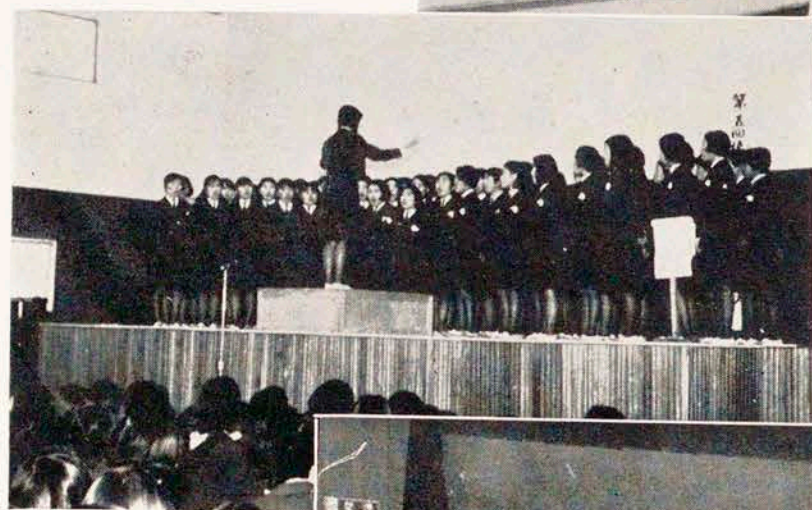
二 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
 学びの道筋 まさしくあれど
 かたみに誓いて いそしみ励む
 教えの庭こそ げに尊けれ
 あわれ尊 この学びや

二

庭面に茂れる 姫松小松
 変らぬ操は 千代万代と
 かたみに祝いて いそしみ励む
 学びの庭こそ げに芽出度けれ
 あわれ芽出度 この学びや



校内弁論大会
表情豊か。審査員の先生方も真剣です



合唱コンクール
(音痴は誰?)



第7回定期演奏会
オーケストラ500人の大合唱…
…感激でした



文化祭作品展 (全くご立派な腕前でした)



活発な意見が出ているようですね、聞き入る表情にも真剣さが…… (生徒会総会)



70周年記念事業について……PTAの役員会



調理科誕生 (男子生徒も入るんですって。！)

ソフトボール部



岩手県代表久保学園と対戦……
3:1で勝つ(全国大会)



全校生徒の期待をになって国体へ出発(壮行会)

バレーボール部



北海道代表釧路商と対戦
2:1で勝つ(全国大会)



次のセットは…塚原先生より策をうける選手

優しい心づかいの運動も活発に



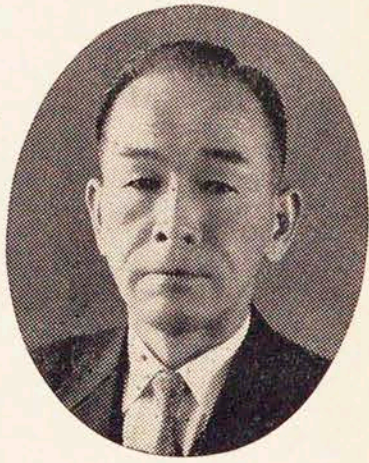
敬老の日のプレゼントの準備中



“歳末助け合い募金”を……下野、栃木両新聞社を通して寄託



県芸術祭写真部門入選作品「授賞」…関根正子撮影(3年)



七十周年記念の年

全校一丸となって前進しよう

学校長 須賀友正

多くの問題が押しつづまれているのかと、思わず大空を仰ぎみたことである。「静謐」を心ゆくまで味わうことができた。この輝かしい初光のどきに、激動の年といわれる

安保をはじめ大学問題、万博、交通対策、物価等々七十年度の課題は山積しているが、小さくわたくしどもの学園について考えてみても、ことはその意義は一しお深いものがあり、七十年代へかけて一大飛躍の基礎をかためるべき年でもあるのである。

まず本校創立七十周年を記念する一連の行事を、この秋に集中してとり行なわなければならない。一口に七十周年というが、これはかならずしも短い年月とはいえない。明治、大正、昭和と三代にわたる風雪を乗り越え、ひたすらに学園の発展と本県教育、文化の向上に尽くしてきた長い歳月の歩みを思うとき、感慨ひとしおなるものがあり、約一万八千名におよぶ同窓会の皆さまとともに学園をあげて祝福すべきものと考えます。

すでに、その行事の一環である建坪一、一五〇坪、鉄筋四階建、四十三室を擁する本館も三月には完成する。そして宇短大附属高校という新校名にもかなりなじんでき、また高校の教育内容も多様化の線にそって着々と充実し、四月からは、本県はもとより、全国にも数少ない調理科も、各方面の大きな期待のもとに発足することになった。

なお、体育、文化両面にわたる二十七クラブの活動もきわめて活発で、ソフトボール部の国体出場をはじめ、各クラブがそれぞれ全国大会においてはなばなしい成果をおさめることができた。

また、個人としては、三年生の赤羽根利子君が、万博作文コンクールで第一位、文部大臣賞を獲得する栄誉に輝いたことも特記されなければならない。

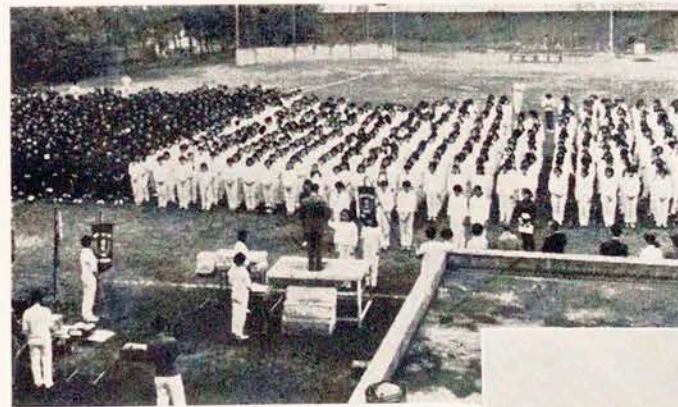
このように概観すると、記念すべき七十周年を盛大に迎える素地は、すでに着々と耕やされ、播種され、実りの秋へ向かって胎動しつつあるとも考えられ、まことに心強いものがある。

このほうはいたる流れを力強く押し進め、所期の目的を達成するよう、全校一丸となって前進しようではありませんか。

バスケットボール部



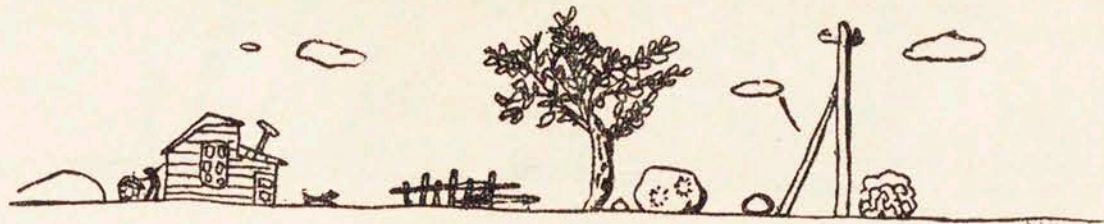
はつらつ／＼ 敵を圧倒……インターハイにて



校内球技大会
戦い終えて……表彰式



選手も応援団も……熱狂する奮戦ぶり



ここに集う若者たち。
何も知らない
誰も知らない
あそこに集う若者たち。
この若者たちは日が経つにつれ
誰もが知り合うようになる。
クラスメイトとして
友達として
五十人輪をつくり
三・四人手を結び
親友として
ひとり・ふたり……。

麦

三年 高山 三雪

麦は理想の人間像
あらゆる苦難を乗り越える
寒くとも踏まれても
いつしかきつと実を結ぶ
それまでじつとがまんして
自分の時節をまつている
一つも文句をいわないで
あらゆる苦難を乗り越えて
いつかはきつと実を結ぶ
麦は理想の人間像。

心

一年 五月女 みき

人の心
人の心と言ふものは
見かけだけではわからない
どんなに美しい顔していても
心と言ふものはわからない
どんなにこわい顔していても
心はやさしいかもしれない。

時計

三年 池田 仁子

ひっそりとした寒い夜
机の時計が動いている
この寒い夜に生きているのは
私と時計のふたりだけ
じつとみつめていると
時計は銀世界の中へ動いてゆく
私はそこへ大きく「喜び」と「悲しみ」の文字を刻みこむ
そして 時計よ 私を未知の国へ連れてって
といったら静かにベルが鳴った。

人間教育に挺身した

創立者 須賀栄子先生

副校長 須賀 淳



(本文は、文部省が発行している月刊雑誌「私学振興」の二月号に掲載されたものです。創立七十周年にあたり創立者須賀栄子先生をしのんで再録いたします。—編集部—)

一、栃木県女子教育界の草分け

国家、社会の基礎は健全な家庭の建設にある。女性がこの任を全うすることこそそのもつとも尊い使命であるとの信念のもとに、家庭の中心となってその貞徳を發揮しうる女性の薫陶に心血をそそぎ

青春のすべてと全生涯を傾注した人、その人こそ須賀学園(宇都宮短期大学同附属高校)の創立者須賀栄子先生である。
須賀学園の創立は、遠く明治三十三年十一月三日のことである。長い封建時代の遺風で、女子教育は不要であるという考えがまだ根深く残っていた時代の流れに抗して、栄子先生が、まだ二十七才という若い女性の身をもつて宇都宮市に学校を創設し、以来昭和九年に没せられるまで三十四年の長きにわたり、若き女性たちに真にその使命を自覚させ、共和の精神に目覚め「行」に徹する堅実で気品高い婦人の育成にその生涯を捧げられたことは、栃木県女子教育界の草分けとして、われわれの渴仰措くあたわざるところである。
現在の須賀学園は、明治、大正、昭和と三代にわたる風雪をのりこえ、ひとすじに、明朗、健全な人間形成と個性、能力、特性に必ずするキメこまかな指導を教育の方針として進んでいる。そして「一人は一校を代表する」との生活目標のもとに、全学園をあげて「優しい心づかいの運動」を推進し、希望と人間味豊かなロマンに満ちた学園生活が展開されている。

このようにして創立七十年、巣立っていった卒業生は約一万七千名、昭和四十二年度からは新たに短期大学を加え、二千有余名の学生、生徒が学ぶ一大総合学園に発展している。

二、創立の教育精神

昭和二十年に戦災を受け、現在地(宇都宮市西原町)に移る前の本学園は、宇都宮城跡三の丸の満々と水をたたえたお堀のほとり、静かな住宅街の一角にあった。大谷石にかこまれた正門入口のあたりは、枝ぶりの美しい松の木が植えこまれ、四季を通じて変わることはない常緑の美を誇っていた。栄子先生は、この校内に居住し、多

くの生徒と起居をともにして、その教育に専念していたのである。先生は、明治の初め、宇都宮市内で唯一の小学校であった東小学校から、尋常中学校（現在の県立宇都宮高校）の女子部を卒業して東京神田の大成学館に入り、英語、理科、裁縫等の勉強をし、当時としては最高の教育を受けたが、先生の痛感したことは、日本の国を興し、国際的地位を高めるには、まず次代をなう子女の教育にあたるりっぱな母親となる人をつくることが、とも大切であるということであった。

先生の三十四年にわたる教育活動のすべてはこの初一念によって貫かれていた。「りっぱな母親をつくること」それは、英語、理科、数学などの普通教科の履習はもとより大切ではあるが、それにもまして必要なことは人間をつくること、そして実際の生活に役立つ技術、技能を身につけさせること——生活教育にあることに着眼して、人間形成の基礎となる学問と、ただちに実生活に直結する教育を履行した。

女性としての身だしなみと技芸の修得——今日の言葉でいえば生活指導に重点をおき、裁縫という実践をとおして生徒たちに創造のよろこびを味わわせ、かつ忍耐力を養おうと意図したのである。それは徹底した「行」の教育であり、生徒たちと起居をともにして、日常生活のなかで、生徒たちに「こうあるべき姿」を示したものでいわば塾の教育に近い、理想的な場における人間形成を行なったのである。

三、魂と魂との触れ合い

学校の正門に入って石畳にさしかかった人のだれもが驚くことはきれいに水洗いされ、ちり一つとどめないその美しきであった。地方からでてきた父兄のなかには、石畳があまりにもきれいなので、履物をぬいで手にもって入ってきたという話が今に伝わっている。

苦勞もこれからようやく報いられようとした昭和九年、かしこくも天皇陛下には、先生に対し、単独拜謁を仰せつける旨旨せ出され、先生をはじめ全学園あげてその荣誉に感激し、先生には、その日に備えて宵戒沐浴をされていたが、その直前十月十四日、突然脳溢血にたおれ、数時間にしてこの世を去られたのである。まことに惜しみてもあまりある痛恨事であった。ときに六十二歳。

現在の須賀学園は、家政科、普通科、商業科、音楽科、調理科を有する総合高等学校のうえに、さらに短期大学を設立して、ますます発展しつつあるが、その根本には、創立者須賀栄子先生の「行」を中心とした人間形成の教育が脈々として生きつづけているのである。

次に掲げた「告辞」は、初代校長須賀栄子先生が、大正八年三月本校の第三十五回の卒業式にあたり、卒業生におくったことばです。これは、創立七十周年記念事業の一つである校史の編さんにあたっておられる河住先生の手によって、校長室の書類戸棚のなかに保存されていた古い文書綴りのなかから発見されたものです。

大正八年（一九一九年）は、第一次世界大戦が終った翌年にあたり、戦勝国日本は、大戦中の好景気によって国内が「軽佻浮華ノ風」に満ちていた時代です。ちょうど経済の高度成長により「昭和元禄」といわれている現代と似かよっていた時代といえるでしょう。

この「告辞」の文章は、漢文調の名文であり、そのなかに一字の略字も使われておりません。まことに栄子校長先生の人柄をあらわすにふさわしく、その内容も現代の卒業生におくることばとしてもりっぱに通用するのではないのでしょうか。

現代の高校生にはちょっとむずかしいかも知れませんが、古典の勉強のつもりで、辞書をひきながら読んでみてください。

（須賀 淳記）

これは先生の方針に従って、清掃が徹底して行なわれていた一例である。先生はすべてなにごとによらず、やるときまづたことは、徹底するまでやらなければ気がすまぬ人であった。

一事が万事、根気よく、忍耐強く、あらゆる物事にとりくんでいった。教授上のごときはもちろん、ひろく学問、研究のうえでも熱心にかつぎびしく自己を戒しめる態度で臨んだ。読書は、幼いときからよく好んだが、忙しいなかでも寸暇を惜しみ、きちんと机の前に正座して読書し、その真摯な姿に啓発されて、正しい読書の習慣が身につく。今なお先生の研究的な読書法をつけているという教え子も少なくない。そうして、夜、先生はよく生徒たちに、しんみりと昔語り、自分の生い立ちや、学用品にも不自由した時代のあったことなどを話してきかせた。

自分は、上州（群馬県）館林藩の士族の家に六女として生まれたこと、生後一か月も経たないうちに病気で母を失ったこと、間もなく父も世を去り、きょうだい一番上の姉、寿蛾子に育てられたこと、この姉は常宮、周宮内親王殿下（明治天皇の皇女）の女官をしていたが、両親を失ったため、姉は女官をやめて私たち小さい妹たちの養育にあたることとなったこと、この姉が武家の家の育ちであり、そのうえ宮中に仕えていたので、しつけの点はとくにきびしく、つらいことが多かったことなどを話してくれたという。

生徒たちは、こうして常住座臥、先生の声咳にじかに触れ、その人となりやうかがい知って、この偉大な女子教育者須賀栄子先生の人格に知らず知らずのうちに傾倒していったのである。

四、単独拜謁直前の急死

独身のまま、全精魂をこめて、ひたすら女子教育一本に打ちこんだ先生の努力は、着々と実を結び、学園も大きく発展して、先生の

告

辭

本日ヲ以テ第三十五回卒業證書授與ノ式ヲ挙グルニ臨ミ一言諸子ニ告ゲントス
諸子ハ曩ニ高等小学ニ或ハ高等女学ニ各其業ヲ卒ヘ又茲ニ此業ヲ荷ハル 洵ニ諸子ノ幸福ト謂フベシ
諸子ハ今ヤ處世ニ須要ナル学芸ヲ修得セシト雖モ之レ單ニ其準備ノ一端ヲ了シタルニ過ギズ 將來諸子ガ世ニ立チ良婦ノ実ヲ挙ゲント欲セバ益々勉勵シテ学徳ノ進修ヲ要スルハ固ヨリ其所ナリ 徒ニ卒業ノ名ニ慢ジ心緩ミ休息ル如キアランカ今日ノ榮譽ハ却テ諸子ニ禍スルナキヲ保セズ
願ミルニ夫人歐洲大乱干戈漸ク戢リ和平ノ克服當ニ近キニ在ルベシ 之レ誠ニ慶スベキコトトス 而シテ今後世界文明ノ上ニ一大変革ヲ來タシ社会百般ノ事物愈々複雑艱難ニ赴クヤ必セリ 我等國民タルモノ警覺發憤シテ須ラク之レニ対スルノ自覚アルヲ要ス 惟フニ諸子前途處世ノ方ハ実ニ容易ナリトセズ 諸子ガ昔テ学窓ヨリ視テ憧憬セシニ比スレバ 蓋シ霄壤ノ差アラン ソモ我邦婦人ノ本分トナス所ハ即チ良妻賢母タルニアリテ専ラ家庭ヲ本位トナスモ時代ノ要求ハ其ノ内容ニ於テ改善發達ヲ促スノ機運迫レリ 諸子宜シク思フ愛ニ致シ修養ヲ積ミ現代女子ノ通弊タル輕佻浮華ノ風ヲ誠シメ質実勤勉自強息マズ以テ其本分ヲ完了スルノ覚悟ナカル可ラズ 將タ世界ノ大勢ニ鑑ミ君國ノ為メニ尽シ其鴻恩ニ報インコトヲ期スベシ
今日諸子ト袂ヲ分ツニ方リ平素訓ヘシ所ヲ一括シテ更ニ印象ヲ深カラシメントス 諸子之レヲ諒セヨ
大正八年三月廿八日

校長 須賀 栄

特集

校内ニューストピックス

「音楽と作品展」

県下各地に進出
多大の好評博す

本年は文化祭開催の年に当たりますが、本館新築中で校内での催しは困難となったので、つぎの日程で県下主要都市に進出し、「音楽と作品展」のタイトルで移動文化祭を行ない、多数の観客動員に成功、好評を博した。

十一月十五日(土) 矢板市体育館 本校オーケストラ部、矢板中学校ブラスバンド出演
作品展示・校史、和裁、洋裁、手芸、食物、商業、理科、文芸、書道、美術、写真、放送即売、中学校招待作品。

十一月二十二日(土) 鹿沼市産業文化会館 本校オーケストラ部、鹿沼東中ブラスバンド、鹿沼西中オーケストラ部出演。展示・右に同じ。

十二月十二日(金) 音楽 栃木会館大ホール(午前、午後、夜の部三回演奏)。展示 。

栃木会館階上、階下) 作品種目右に同じ。
十二月二十日(土) 小山第二中学校体育館 本校オーケストラ、小山ブラスバンド、小山第二中ブラスバンド出演。作品展示・右に同じ。

各会場共千名から千五百名に達する観客の来場があり、また各地元の大会社、大商社からの賛助広告の援助があったことも特筆してお礼の意を表する次第である。

星か丘中生徒会長堀清君からの礼状
(要旨) 音楽鑑賞といえはレコード、テレビ、ラジオなどを利用するだけだったのに、はじめて生の音楽をきく機会に恵まれ、レコードなどよりも、と迫力のあることを知った。こんなすばらしいものだとは予想もしていなかった。あの演奏者ひとりひとりの音楽への情熱、目の光、全体が一つに心を合わせていっしょうけんめいに行っていたこと、すばらしかった。感動しました。少なからず教訓を得ました。ありがとうございます。

活発な意見発表

生徒会役員選挙

顧問伊沢先生をはじめ、先生方の御指導のもとに十二月十三日に昭和四十五年度生徒役員選挙が行なわれた。立会演説は、応援弁士二分、立候補者三分と定められ、最初に副会長応援弁士、次に副会長候補の順で意見を発表、次いで厳肅の中に投票が行なわれた。生徒会役員立候補者および開票の結果は次の通り

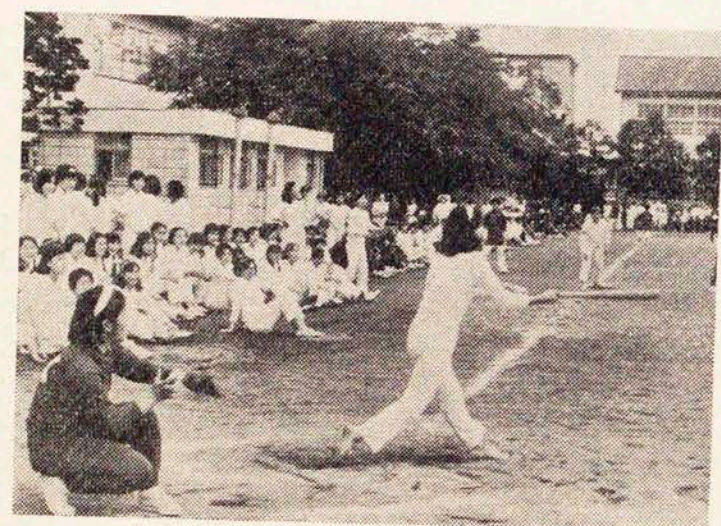
副会長候補
一 市川 和子 よりよい生徒会に
二 菊地 悦子 積極的な生徒会を
三 大岡 清子 よりよい生徒会(学級)づくり
四 黒崎 和子 みんなのための生徒会
五 黒川 浩子 生徒自身の生徒会を
六 荒牧 正子 すばらしい生徒会にする
七 大内紀美子 風紀面を正そう
八 小川原幸枝 生徒会を活発に
九 伊沢 洋乃 何事にも積極的

立票 南河内中
立票 鹿東大音中
立票 栗陽西中
立票 荒原部中
立票 大谷中
立票 栗陽西中

生徒会発展のために頑張ってください。
(選挙管理委員・三村セツ子)

受持先生が応援団長
華々しい校内球技大会

第九回校内球技大会は日頃あまり運動に接しない人々を対象に七月九日、十日、十一日予選、十二日決勝、十一月十九日、二十日、二十一日予選、二十二日決勝の夏秋二回各四



カッと一撃、ホームランの刹那(校内球技大会)

日間にわたり行なわれた。この大会の目的は各クラスの団結と、和をはかることにあり、競技する者、応援する者、そして各クラスの担任の先生方が一丸となって一喜一憂、白熱的な応援合戦が展開された。各競技とも優勝チームは最後に職員チームと試合をし球技大会に花をそえた。

夏季大会

- 種目 優勝 第二位 第三位
- ソフトボ 二年八組 一年七組 三年七組
 - バレーボ 一年三組 三年七組 三年七組
 - バスケット 一年七組 一年九組 一年七組
 - 卓球 一年三組 二年二組 二年四組
 - 卓球 一年七組 二年二組 二年七組

秋季大会

- 種目 優勝 第二位 第三位
- ソフトボ 三年七組 二年八組 三年九組
 - バレーボ 三年七組 一年三組 三年八組
 - バスケット 二年九組 三年七組 二年十組
 - 卓球 一年十組 二年七組 二年三組
 - 卓球 一年七組 一年八組 三年七組
- 表彰式では運動着はドロロン、ゼッケンはちぎれ、声はつぶれ大変なもの。しかしみんな快い疲労と満足感でいっぱい表情。各クラスとも全力を出し一つの目標に向かって協

- 十 山下洋子 魅力ある生徒会 立票 今市 中
 - 九 前原 栄子 自己の確立と和 立票 桑 中
 - 八 菊地 倫子 生徒会に理解と協力を 立票 宮の原 中
 - 七 会長候補 立票 豊岡 中
 - 六 沼尾みどり 校内の美化 立票 大内 中
 - 五 秋山 桐子 校内外の美化 立票 大内 中
 - 四 青木みよ子 責任ある行動 立票 栗野 中
 - 三 加藤 広子 後悔のない学園生活を 立票 栗野 中
 - 二 新堀 清子 よりよい学園をつくる 立票 栗野 中
 - 一 副会長 立票 栗野 中
 - 二の六 井上 冷子 努力 立票 三依 中
 - 七 増山美智子 生徒の意見尊重 立票 大宮 中
 - 八 大森マチ子 和の精神 立票 大宮 中
 - 九 牧野 敏子 充実した学園生活 立票 原 中
 - 十 椎貝 啓子 校内美化 立票 加蘇 中
 - 十一 大塚 洋子 活気ある生徒会 立票 大内 中
- (尚 庶務、会計、議長団は後日決定いたしました。)
- 新役員の方々はじめ、全会員一致協力して

力し、努力し合う姿を見るにつれて、球技大会は有意義な行事の一つであったと思う。
(運営委員・西尾のぶ)

昨年よりも好評

校内合唱コンクール本選

第六回校内合唱コンクール本選が十一月十五日体育館で全校生を一堂に会し盛大に開催された。十一月七日の予選、そして本選へと勝ち進んだ精鋭の集まり。さすが本選へとわしい雰囲気であった。今年の課題曲は、米山正夫詩作曲、山小屋の灯。

参加クラスおよび成績はつぎのとおり。

- 第一位 一年八組 自由曲「若者達」
(二部合唱) 指揮者 関 恵子
 - 第二位 一年十二組 自由曲「灯」(二部)
指揮者 菊地 倫子
 - 第三位 三年四組 自由曲「さくらさくら」
(二部) 指揮者 秋葉 友子
- 第一位一年八組には学校長より金の女神トロフィが授与され、講評でも進歩の跡が認められた。また続いて次の賛助出演があった。
・音楽科合唱団 山小屋の灯。北の風

・コーラス部 山小屋の灯。忘れな草。気のいいアヒル。
(企画委員長・下山早苗)

「ことばを正しく」

校内放送コンテスト

「第二回校内放送コンテストは、十一月二十日、二十六日予選、決勝は十二月九日と三日間にわたってくり広げられた。このコンテストは「正しい言葉を使いましょう」というテーマで行なわれたもの。各クラスより朗読、アナウンス一名ずつ優秀な者が選ばれて競いあった結果、朗読部門では三年五組の渡辺茂子さん、アナウンス部門においては三年六組の成田和子さんがそれぞれ優勝した。つぎに紹介するのは、アナウンス部門第一位の校内ニュース原稿。

「創立七十周年を、来年にひかえ、一つの大きな事業として、鉄筋四階建ての新本館が建設されております。この建設にあたり、家政科、普通科、商業科、音楽科の四科に、さらに、調理科ができることは、本校にとって大なる発展がうかがわれます。また十二月十二日には、定期演奏会がもたらされますが、全校生徒の代表がハレルヤコースに参加することになり、音楽科同様は

りきってレッスンに励んでおりますが、時にはこみあげてしまうこともあります。このようになごやかなふんいきのもとで音楽に親しむことは、すばらしいことだと思います。意義ある音楽会になる様全校生が心を一貫となつて頑張りましょう。

朗読、アナウンスの栄冠は、ことしは三年生に輝いたが、一、二年生の皆さんもがんばって、来年はよい成績をあげてほしい。

秋季校内俳句大会

文芸部主催の第三回校内俳句大会は十月の第三土曜日夜後家政科特別教室で開催、出句九十九句につき互選の結果次々とおり入賞者が決まり手塚先生の講評があつて閉会した。

- ①池田里子(一の九)
- ②池田典子(一の九)
- ③高木房子(一の九)
- ④鈴木しげ子(三の四)
- ⑤吉田とし子(一の九)

万国博作文コンクール佳作入賞

大阪興論調査研究所主催、文部省後援の標記コンクール一位に赤羽根利子さんが入賞、文部大臣賞、賞金三万円を獲得したが、本校からは次の四君が佳作に入賞した。

- 川上政子(三年) 吉井英子(三年) 森田せい子(二年) 小林久美子(一年)

善行生徒らに続々感謝状

優しい心づかいの運動実る

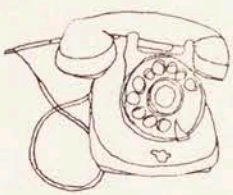
小さな親切運動 本部から表彰

「本人も知らない間に」



阿久津さん 公子さんは昨年十月、小さな親切運動本部から表彰を受けた。予告なしの突然の表彰に本人も学校もとまひびつくり。

これは阿久津さんが通学の途次、大きい荷物を持って困っているお年寄りをいたわってバスに乗せて上げたり、子供をおぶった母親や老人たちに度々座席をゆずってやるなど、日頃黙々とやさしい心づかいを積み重ねているのに感動したかくれた篤志家(無名の)が



同本部へ知らせたことによるもの。阿久津さんは親切な心の持主で「自分でもまったく知らなかったことなのでびっくりしました。いつしたことがこんな結果になったのか、気のついたときはいつもしているもので……」とかえって困ったという顔つきであった。

親切な女生徒さんをさがして下さい

お年寄りからの感謝状

突然にお手紙をさし上げて誠に失礼でございますが、何卒お許し下さい。実は、この十月十日、私が宇都宮より上京するため、宇都宮発十二時十八分上野駅行に乗車いたします際、御校の女生徒さん二人が

私が老人で荷物を沢山持っていたのを見て、私の荷物を持って下さいまして、汽車にのせてくれました。ほんとうに有難く思いました。その際女生徒さんのお名前をきくのを忘れ御礼の申しようもなく、困ってしまいました。

私はまだしばらく滞京していますので、御校をたずね、その生徒さんを探しお礼を申し上げたいと存じますが、それもすぐには出来ませんので、校長先生にお願ひ申し上げ、その生徒さんにお礼を申しつたえて頂きたく、この手紙を差し上げました次第でございます。誠に手数でございますが、何分ともよろしくお願ひ申し上げます。

まずは右お願ひまで。
昭和四十四年十月二十三日

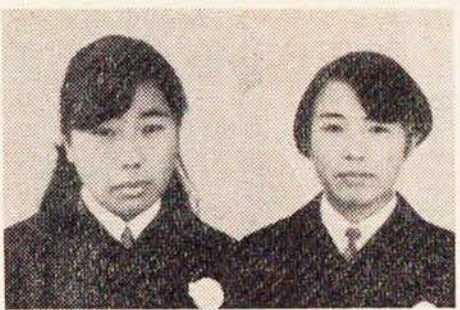
校長先生 小林りん

当然なことをしただけ

淡々と語るおふたり

十月二十三日付宇都宮市清住三丁目二八の七小林りんさんから右のようなお手紙をいた

だいた本校では、早速各クラスについてこの善行生徒を調べたところ、なかなか申し出がなかったが、やがて二年七組荒牧恵子、矢野



芳子さんの二人であることが分った。直ちに表彰の手続きをとつたが、ふたりは「当然するべきことをしただけのことです。お礼状をいただけなくて、かえ

って恥ずかしいくらいです。」と、恐縮していた。二人は氏家町からの通学生で、「自分たちばかりでなく親切なお友達は外にもたくさん居ますよ。」と淡々として話していた。

焼け出された人達に

鹿沼校友会が善意の寄付

鹿沼地区校友会では、十一月末の大火で焼け出され、困っている人達のために、日用品、雑貨、衣類などをあつめ、二月五日代表

者が鹿沼市福祉事務所をおとつれ寄付した。

「歳末助け合い」に

二万四千円を寄託

十二月十二日の定期演奏会場に募金箱を設けて「歳末助け合いの運動」に協力した本校では、十二月二十三日生徒会長高山三雪、副会長西尾のぶ両代表を下野、栃木新聞社におもむかせ、歳末助け合い募金の一部にと、各一万一千八百八十五円計二万三千七百七十円を寄託した。

下野三楽園を慰問

喜ばれた小さい善意

宮の原、一条、陽南、姿川、横川地区校友会では、かねてベルマークの収集を行なってきたが、六十名の会員の協力で約三千点が集まったので、それにラジオオラスの球根、衣類などを加えてこのほど下野三楽園を慰問した。

私達にとっては初めての慰問だったので少なからず緊張したが、施設側では大変喜んで

歓迎してくれた。これからもこのような善意運動は小さいながらも実行してゆきたいと会員一同はりきっている。(西尾のぶ記)

感謝状ふたつ

◇宇都宮市 「斎晴院長 森玄俊氏」より
本校一年三組(家政科)一同宛
下野新聞社をおして暖かい心づかいの金一封を寄贈していただき有難う。戴いたお金で早速子供たちにおやつを買ってあげました。おかげで子供たちは明るい生活を楽しんでいます。という感謝の趣旨。

◇宇都宮市 「済生会宇都宮乳児院」より
本校一年一組(家政科)一同宛
乳児院の子供達のための心暖かな贈物をいただき有難う。当施設は園営で極度に規制された予算で運営しています。オモチャ一つ買うのにも種々困難を伴うといった有様です。こんな事情ですので、皆様の贈物は職員一同心から喜んでいきます。という趣旨。

——編集部より。皆さんの善意は、このような喜びを施設の方々にもたらしている。各クラス共慰問活動を活発にしよう。

各クラブの戦跡

ソフトボール部

関東大会予選
五月十日 一回戦 氏家高対附属高 0—X15
二回戦 附属高対那須高 7—0
五月十二日 三回戦(四校リーグ戦)
宇女商対附属高 4—0
大田原対附属高 0—X11
矢女高対附属高 3—X12
五月十八日 関東大会
六月廿八日 一回戦 附属高対俊成高 3—2
二回戦 向上高対附属高 1—0 負
全日本大会
八月六日 一回戦 附属高対久保学園 3—1
八月七日 二回戦 鷺谷高対附属高 0—3
八月八日 三回戦 宇部高対附属高 3—1 負
国体予選
八月十九日 一回戦 附属高対島女高 15—0
二回戦 佐女高対附属高 0—X2
八月二十日 三回戦 矢女高対附属高 2—X5
四回戦 決勝戦
附属高対宇女商 2—1

国体第二次関東ブロック予選

八月廿九日 一回戦 石岡二高対附属高 0—X3
二回戦 神田女高対附属高 2—1 負
三回戦 星野高対附属高 0—X9
十月廿七日 一回戦 附属高対古川女高 4—0
十月廿八日 二回戦 附属高対野田学園 1—0
十月廿九日 三回戦 大分東高対附属高 2—0 負

バレーボール部

関東大会予選
宇短大附属 2
15 15 9
10 6 15
1
1 茂木
準決勝
宇短大附属 2
15 15 10
10 10 15
8
1 宇女商
決勝
宇短大附属 2
15 15 12
10 10 0
0 石橋
以上のような結果でバレー部は優勝しました。

体操部

県下高校体操競技二部大会

種目別
平行棒 優勝 水島 洋子
準優勝 山崎 恒子
泉下高校体操競技新人大会
団体 三位

個人では一年生の部
準優勝 水島 洋子
第三位 山崎 恒子
二年生の部 第五位 野沢美智子
種目別
平均台 第五位 野沢美智子

弁論部

第三回全関東地区高校弁論大会
(足利高校) 十月二十六日(日)
最優秀賞 高山 三雪
第十五回県下高校招待弁論大会(宇工高校)
十一月二十一日(金)
優勝 加藤 広子
第二十回栃木県下高等学校弁論大会
真岡高校十一月二日(日)
第三位 加藤 広子